

第1回龍コン（ドラコン）参加報告

Participation Report on the First Meeting of ‘Dorakon.’

畦地 真太郎

AZECHI Shintaro

経営学科

az@alice.asahi-u.ac.jp

要旨

2012年7月7日（土）、岩泉町初の試みとなる街コン、龍（ドラ）コンが行われた。本稿では、その開催状況を報告し、町おこしにおけるイベント運営とSNSの有効利用について論じる。

キーワード：龍コン、岩泉、街コン、観光地域振興、Twitter

街コンは、町全体を使って合同コンパを繰り広げようというイベントである。地方自治体や商工団体などが中心となる場合が多く、地域全体が開催を後援することとなる。目的は、地域経済の活性化や、観光の振興を図るだけでなく、地域における出会いや結婚を促進し、地域の少子化を食い止めようというものが含まれる。

1. 第1回龍コン開催の概要

2012年7月7日（土）、岩手県下閉伊郡岩泉町が企画・運営する街コン「第1回龍コン（ドラコン）」（以下、龍コン）が開催された。龍コンの名称は、町の最重要観光資源である観光洞窟「龍泉洞」あるいはマスコットキャラクターの「龍ちゃん」にちなんだものであり、そのまま英語で龍を意味する単語「Dragon」と符合する。

1-1. 目的と方法

このイベントは、町の結婚活動支援事業として実施されており、イベントを通じて出会い、参加日から2年以内に結婚して町内に居住した場合には、町から20万円の商品券が支給されるということになっている。しかし、参加者は未婚／既婚の別や、居住の町内外の区別もなく、町おこしの一

環として行われる性格が強いイベントだと考えられる。ただし、年齢制限は、20歳から100歳までとなっている。

参加募集人数は、男性・女性共に100名ずつの計200名であったが、参加人数は男性99名、女性71名の、計170名であった。なお、当日の発表によると、町外の参加者は90名、20代の参加者は75名である。参加費は、男性4,000円に対し、女性3,000円である。

1-2. 実施状況

実施は、主に町内岩泉地区中心部「うれいら通り商店街」で行われた。主要な参加店は、ほぼ半径150m以内に立地しているが、一部は300m程度遠いホテル前に存在する。参加店舗数は12店であり、イタリアンカフェ、寿司店、喫茶店、スナック等の他、商店街有志が提供する町家を利用した特設店舗（横屋茶屋あつけら館）も含まれる。その他、街コン開始前のイベントとして、酒造蔵の特別見学会等が開催された。

開催時間は、18時から21時までである。イベントタグを腕に巻いた参加者は、基本的には各店舗で飲み放題・食べ放題のサービスを受けられる。ただし、参加者の配置が特定店舗に固まらないよ

うに、最初に赴く店舗は指定された。



図1. 開催店舗(イタリアンカフェ“カンティーナ”)

1-3. Twitterの有効利用

龍コン実行委員会では、イベント実施以前より、広報宣伝および参加者との交流を目的とした、Twitterアカウント (@dorakon_iwaizumi) を準備し、情報発信を行っていた。

上述の通り、街コンの開催場所は複数の店舗・やや広範囲にまたがるために、ある特定の店舗へ参加者が集中してしまい、他の店舗には参加者が来ないという偏りが見られる場合が多い。龍コンでは、Twitterを利用することで、常時「空いている店舗」「賑わっている店舗」「盛り上がりの動向」「町長がどの店に現れたか」などの情報発信をしていた。

参加者は、スマートフォンなどを利用してTwitterのタイムラインを見ることで、有効な行動が可能になる一方で、Twitterが見られない環境の参加者に対して積極的な情報提供を行うことによって、コミュニケーションを図る糸口とすることができた。さらに、終了時刻などの徹底化を図ることで、運営と参加者が一体となって、円滑なイベント運営を図ることが可能になった。

1-4. 参加者の交流動向

イベントを機に、初めて岩泉を訪れたという町外参加者が見られた一方で、町内参加者からも「小さい町(人口約1万人)とはいえ、案外知らない人がたくさんいるということが分かった」などの声が聞かれた。町内外の交流はもとより、町内の交流を促進するイベントとして、価値が高

かったと思われる(図2)。



図2. 参加者同士の交流

町外からの参加者は、横屋茶屋あつけら館で提供された、地域特有の小麦麺(うどん)である“かけばつ”(図3)(畦地, 2011a, 2011b)を食べることにより、地域文化の一端に触れることができた。特に、ボランティアによる料理や習慣の説明、実際に商家として用いられてきたあつけら館の造作(例えば囲炉裏)などは、町外参加者の非常に強い興味関心を引いていたようだ。



図3. 横屋茶屋あつけら館で供されたかけばつと

このように、積極的かつ円滑な参加者間のコミュニケーションが容易に取られたのは、運営者である龍コン実行委員会ならびに地域住民の積極

的な関与があったためであると考えられる。特に、当日は町職員が全ての会場で進行から後片付けに至るまでの役務に当たっており、通り一遍の対応ではなく、なんとかイベントを成功させ参加者に満足してもらおうという気概を感じさせた。また、商店街有志は参加者に対して積極的な働きかけを行い、同じく「岩泉が良い町であることを少しでも知らせよう」という誇りに満ちあふれた対応を行っていた。

2. 龍コンの今後と展望

第2回龍コンは、2012年10月20日（土）に開催された。この回は、参加募集人数を男女150名ずつ300名に拡充し、参加費男性4,500円、女性2,500円とし、女性の積極的な参加を狙ったようである。

この回は、「秋の龍泉洞まつり」などのイベントと同時期に行われており、街コン開始前、終了後にも「副町長が教えるパークゴルフ教室」「モシ竜口マンクルーズ乗船体験」などのアトラクションを行っている。これは、町外からの参加者獲得を狙ったものであろう。町外参加者は遠出をしている感覚になる上に、飲酒後は町内に宿泊することになる。「どうせ来たなら」多くの観光を体験しようというニーズに対応したものであると言えるだろう。

龍コンは、2012年度中に全3回の開催が予定されているが、当初冬期を予定していた第3回は、「足下が良くなる」春期に開催されることが予定されている。人口1万人の小さな町が大人数の集客を果たしている地域イベントとして、今後も注目すべき事例であると言えるだろう。

参考文献

- 畦地真太郎, 2011a, かけばつとはほうとうか? -地域自己ステレオタイプとしての文化-, In: 加藤里美・中垣勝臣(編): 全球化社会の深化-異文化をめぐる化合・還元・触媒-, 朝日大学産業情報研究所叢書10, 129-150, 成文堂, 東京.
- 畦地真太郎, 2011b, かけばつとの技術文化, 朝日大学大学院経営学研究科紀要, 12, 74-78.

参考URL

- [1] 「岩手県 岩泉町の街コン | 龍コン（ドラコン）公式サイト」
<http://www.dorakon.net/>
- [2] 「広報 いわいずみ」(広報いわいずみ2012年8月号4ページ)
<http://www.town.iwaizumi.iwate.jp/files/machi/kouhou/20120801/04.htm>